

J A余目支所の売却中止 J A庄内たがわ臨時総代会

J A庄内たがわ臨時総代会が18日、新余目支所2階ホールで開かれました。

第1号議案は、信用事業専任理事の辞任に伴う役員の変更です。学識経験理事候補者に、佐藤茂春氏が選任されました（写真）。佐藤氏は、同農協の経営企画部長を10月退職しました。



第2号議案は、新余目支所の売却、及び北支所（仮称）の用地取得の取り止めです。当該議案は6月23日開催の第27回通常総代会で決議されています。

しかし、売却先である（株）相互不動産の経営者が、法人税を脱税した疑いで、仙台国税局から告発されたことが判明しました。顧問弁護士と相談の

上、業者の財務状態等を改めて調査した結果、売却に向けた交渉を中止すべきと判断したとのことです。

北部支所（仮称）の取得予定地（庄内町吉方）については、売却成立を前提していたものであり、また農地転用が難しいことが判明したことから、取り止めとしました。

経過について

経過について、菅原勝専務理事は次のように説明しました。

6月2日の新聞報道で、不動産事業も行っている秋田医療福祉（株）の社長が、仙台国税局から告発されているという情報が入り、売却先である（株）相互不動産の経営者と同一人物であることが判明した。

6月13日の役員会、16日の臨時理事会で対応を協議し、23日の通常総代会になった。

総代会で議決後に、正式に交渉に入るとなったが、総代会では、交渉ごとであり、成立しない場合があるとの含みを持たせた。7月5日に売却先2

社と協議を行い、告発については正当性を主張していたので、この時点では詳細を把握しきれなかった。

農地転用の問題

総代の質問では、役員の問題を問う発言が続きました。

「売却先の業者の選定はどうだったのか」について、菅原専務は「向こうからオファーがあった。こちらからの選定ではない」と答えました。

「予定地の農地転用の問題」について、太田政士組合長は、

「9月になってから庄内町から農地転用は難しいとの話があった。基盤整備が終わってから8年間は、国の事業であり転用できないが、来年4月に国の網かけは外れる。

しかし、県の事業が始まり、さらに8年間の網かけとなる。それをクリアするには、9月中旬に変更届けを出さなければならず、難しかった」と述べました。

新余目支所売却の計画は、（株）栄不動産と（株）相互不動産に、土

村の四季

19

鈴木重雄（八色木）

カッコウとヨシキリ
今、桐の木は村の中で見えることはなくなつたが、桐の花咲く頃カッコウが来る。

永慶寺の森の中から「カッコウ カッコウ」と鳴き声が聞こえてくると、晴れた空にこだまして、心が浮き立つようである。

近年カッコウの姿が見えなくなった。ヨシキリ（葦切）がいなくなったからである。ヨシキリはカラカラズとも言う。

『善治日記』には、
「明治26年3月12日 午前快天、午後曇り天 西風少シ4時頃ヨリ山瀬少シアリ 種ネセ、苗代拵（こしら）ヒ、出来テカラ田打ツ カラカラズ来ル」とある。

3月12日は新暦で4月27日である。
『善治日記』は、明治26年から昭和9年まで、42年間日記を書き残した後藤善治（本橋村大字豊原の記録である）。

私の子どもの頃は、はしゃぎ過ぎてうるさい子どもを「ゲグズ」と渾名をつけた。

カラカラズは「カラカラズ ジョキジョキ ヨシの葉 デチンチ



キツテイテテ・・・」とかん高い声で飛び回るののでそう言っていた。私の家の隣地が荒地になって葦（ヨシとも言う）が生えていたとき、ヨシキリが巣を作った。

地面から1メートルの高さ3〜4本のアシを集めて×印にし、その上にコップのような形に作る。

底の方はしっかりとアシの茎をまとめて、風で揺れることのない丈夫なもので、それこそ完全な半球の形のしたお椀のような立派なものである。

このヨシキリの巣にカッコウは卵を宿すのである。託卵という。また、カッコウはモズの巣にも託卵する。川辺にアシが生えないから、ヨシキリが営巣できない。したがってカッコウも託卵できないと言つ。

自然環境と生態系の問題でもある。

全額返済

地と建物を現状引き渡し（解体費用は売却先負担）で、売却予定価格は2千万円でした。第3号議案は、当該事業の減損損失を加味した事業計画となつていることから、計数処理を修正しました。

また、住宅抵当権外しの信用事業の不祥事問題では、本人と保証人から全額返済があったことを明らかにしました。

小中一貫で地域衰退も

山形・鶴岡市議会 加藤議員が指摘

「小中一貫校のある地域は子どもいなくなり、通学が不便でますます子どもがいなくなる」。山形県鶴岡市

加藤市議は、小中一

565 北海道支局 011(750)3030
566 FAX 011(750)3031

貫校導入について中1の成長の飛躍が生まれず、高1ギャップが乗り越えられないなどの問題点を取り上げました。

「小中一貫教育」の検討目的に9月に設置された「藤島地域教育振興会議」について、小中一貫校のメリットは2016年の法改正で、「義務教育学校」を

開設した場合、建設費の2分の1が国庫負担の対象になり、「市にとってこれまでの校舎改築の国庫負担率3分の1より有利になるだけ」とズバリ指摘しました。

同市では、複式学級解消を目的に2013年度に40あった小学校が18年度には26校に激減し、同時期に教員数

は517人から14%減、職員数は221人から15%減となりました。

加藤市議は言います。「藤島地域に小学校も中学校もなくなり、9年間の義務教育学校が一つになり、小6の卒業式も中1の入学式もない地域にしたのか。東栄小の伝統の獅子踊りや、渡前小

の海浜学校・獅子踊りが無くなってよいのか。地域、児童・生徒保護者、教職員の意見を十分に聞くべきです」

⇒新聞『赤旗』 日刊紙10月15日付

に掲載されました。

(記事・佐藤誠一記者)

ものである。

語る改心行脚と平和運動に徹した人である。

村山俊太郎・ひで夫妻

青山 崇

砂田 特高に転向

前々回「村山家と特高・砂田周蔵」の続きである。

1925年の徴兵検査は甲種合格であった。同年南満州公主嶺獨立守備大隊に入営した。この大隊は南満州鉄道とそれに付随するものの警備が任務であった。

砂田については、大隊「要注意人物」の連絡が入り、所属班長まで密かに通知されていた。

1928年に作成された『軍部関係思想要

注意者策動に関する報告の件』という通達があり、軍隊内の体制ができていた。その中心が「身上調書」である。

「身上調書」をバネにして取締側に跳躍する方法を考えた。

生い立ち・家庭の状況・教育程度・入営前の職業および行動・左傾思想を抱いた動機・外部との通信連絡状況等の入隊後の状況などが書くべき内容である。

書くことが、隊の訓練・作業・業務に相当するとし、それらは欠席し一心に書いた。

上部は転向させられると思っていたのだろう。砂田も積極的に転向の意志を表明したと思われる。

共産党員で、戦中、庄内の農民運動などを指導した竹内丑松(元酒田市議)は、回顧録『夜明けをめざして』

で、「谷地の社会主義研究会のもっとも若い同人であった砂田周蔵の如きは、兵役を終えてから警察官になり、鶴岡署に勤務し、農民組合のある栄町のあたりを受持ち、われわれを監視する任務を担っていた」と書いている。

右上図について

聞き書きある憲兵の記録 朝日文庫あつし 土屋芳雄氏の著書の表紙である。

土屋氏は、自分の憲兵の悪行を、朝日記者に語り記者が記録した



コロナの対策は

いつからかコロナで発表される数値の中心が変わった。変わる前は、コロナに罹った人の数だったが、今は罹った人が一定の条件に当てはまる人の数だそう。ならば、先週と比べても意味がないような感じも。

▲変えたわけは、新罹患者を医療機関から保健所に報告する内容が多く、患者の病院探しなどで手が回らないと、苦情が双方からあり、変えたもののような。

▲苦情が出る原因は、コロナ発生を抑える国の方針がない事。行政改革と言って保健所の数とそこで働く人を減らしてきた事。併せて、病院のベッドの数を減らしてきたからだ。このことは、7次だ、もうすぐ8次が来ると言いながら、職場の状況は変わっていないんじ

やないの。

▲こうして発表される数値は以前と比べて小さくなったが、安心できないんだ。実際はその4倍位あるんだろうと言っている人がいた。だから俺たちは、市町村ごとの数値も分からず、前より危険な状況に。こんな状況の下でも、県だが、人口比で日本一のこと。

▲国は、こうして見かけの数値を小さくして安心させ、経済を回す・と称しては、旅行に補助金を付けた。抑えられていた人の動きはイッキに躍動。豪華旅行を安くするために大きな行列が。ホテルや旅行会社では混乱も。

▲極端な円安で、外国の旅行客は急増。その外国ではマスクが使われていないからと日本でもその方向ダトか。だったら、これでコロナは減らせるのかね。俺は8次が近くなると思うんだが。(石川)

